

ID No.	3076
研究課題名	ヒトヘルペスウイルス 6 の増殖を規定する宿主 機構の研究
研究代表者	有井 潤 (神戸大学・特命准教授)
研究組織	
受入教員	川口 寧 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	SALMA AKTAR (神戸大学・大学院生) 黄 経霖 (神戸大学・大学院生) 前田 史雄 (産業技術総合研究所・研究員) 加藤 哲久 (東京大学医科学研究所・助教) 小柳 直人 (東京大学医科学研究所・助教) 丸鶴 雄平 (東京大学医科学研究所・助教) 竹島 功高 (東京大学医科学研究所・特任研究員)
研究報告書	
	<p>ヒトを宿主とするヘルペスウイルスは、9種存在し、それぞれが多彩な病態を引き起こす。これらのウイルスは、類似した遺伝子群を持ち、細胞内におけるゲノム複製、粒子形成機構はほぼ同一である。核内カプシドの核外輸送は、核内でゲノム複製し細胞質で粒子形成が完了するヘルペスウイルスにとって必須の過程であり、全ヘルペスウイルスに保存されたウイルス因子Nuclear egress complex (NEC)によって引き起こされる。今年度は、宿主の膜切断機構であるESCRT-IIIのアダプター分子であるALIXと、NECとの相互作用を解析した。NEC構成因子UL34の非構造領域のアルギニン残基が、ALIXとの相互作用、感染細胞におけるESCRT-IIIの核膜へのリクルート、カプシドの核外輸送およびウイルス増殖に貢献することを明らかにした。さらに、カプシドの核外輸送に貢献する新規宿主因子を明らかにした。</p>